

福岡市中学校体育連盟

【設立年月日】 1948（昭23）年

【加盟年月日】 1962（昭37）年

【会 長】 越 智 信 彰

【歴代会長】

初代	稲 永 文 作	1948年
2代	久 保 伊 作	1949～1950年
3代	山 田 光 男	1951年
4代	西 依 政治郎	1952～1955年
5代	益 田 道 信	1956～1959年
6代	岩 瀬 直次郎	1960～1961年
7代	葉 山 好 樹	1962～1965年
8代	松 井 寛 吉	1966年
9代	上 野 米 次	1967年
10代	田 丸 義 重	1968年
11代	山 田 利 蔵	1969～1977年
12代	上 岡 之 孝	1978年
13代	田 中 初 男	1979～1980年
14代	小金丸 孝	1981～1982年
15代	毛 利 茂 雄	1983～1987年
16代	丸 林 弘 行	1988年
17代	服 部 平 太	1989年
18代	大 穂 猛	1990～1991年
19代	宮 司 宗 明	1992～1993年
20代	桑 江 良 和	1994～1996年
21代	原 田 耕 吉	1997～1998年
22代	赤 池 成 昭	1999年
23代	小 城 廣	2000～2001年
24代	立 野 俊 六	2002～2005年
25代	浅 見 義 紀	2006～2007年
26代	波多江 淳 二	2008～2009年
27代	越 智 信 彰	2010年～

【歴代理事長】

初代	雑 賀 要	1948～1950年
2代	中 村 喜 義	1951～1956年
3代	岡 部 利 安	1957～1959年
4代	山 田 利 蔵	1960～1962年
5代	柴 田 清 隆	1963～1966年
6代	渡 辺 謙 次	1967～1969年
7代	小金丸 孝	1970年

8代	藤 木 利 雄	1971～1972年
9代	渡 辺 謙 次	1973～1975年
10代	桑 江 良 和	1976～1978年
11代	藤 田 正 孝	1979～1981年
12代	岡 島 孝 司	1982年
13代	豊 福 守 男	1983～1984年
14代	岩 永 幸 一	1985～1987年
15代	立 野 俊 六	1988～1990年
16代	波多江 淳 二	1991～1993年
17代	西 浦 忠	1994～1996年
18代	渡 部 保 介	1997～2000年
19代	坂 本 靖 久	2001～2003年
20代	小金丸 宏	2004～2005年
21代	箱 島 徳 人	2006～2007年
22代	永 野 主 税	2008～2010年
23代	赤 池 潤	2011～現在

【沿革】

1947年（昭22）年大戦後の苦難と虚脱状態の中、さらに皆無に等しい教育環境のもとで産声を上げました。翌1948（昭23）年第3回国民体育大会の福岡開催に伴い、福岡市民の熱意と関心に支えられ、初代会長稲永文作氏のもと、市教組執行部並びに現場の体育関係者の多大な尽力により福岡市中学校体育連盟が発足し、8専門部の設立により各競技が開催されるようになりました。当初は加盟生徒一人あたり12円の負担金徴収と、市当局からの若干の補助金を受けて運営されており、優勝旗・優勝カップ等も関係者からの寄贈により厳しい運営をしてきました。1969（昭44）年本連盟と市教育委員会とにより福岡市中学校総合体育大会運営委員会を発足させ、大会費用一切を市当局が負担することとなりました。さらに1972（昭47）年福岡市の政令指定都市昇格に伴い、福岡地区中体連から独立福岡市中体連として県中体連へ加盟することになりました。翌年、各区大会において総合優勝校に行政区長より男女それぞれに区長杯が贈られることとなり、一段と充実した大会運営となりました。

1974（昭49）年、中体連大会では全国でも類を見ない「障害児学級大会」（2000年よりフラインピック大会と名称変更）を開催し、教育現場に幅広く浸透していきました。1979（昭54）年全国大会が教育内活動として学校教育に位置づけられることとなり、また1984（昭59）年には教育委員会・競技団体及び関係各位の協力により新人大会が開催されることとなり、市内中学生の大きな目標として大会運営も充実してきました。発足当時16校8種目でスタートした大会も1967（昭42）年大会では43校16種目となり、さらに1977（昭52）年大会では54校17種目となりました。年々市内中学校の新設に伴い大会参加校も増え、1987（昭62）年には69校19種目に、連盟創立50周年にあたる1998（平10）年には80校20種目に、そして、2001（平13）年には、83校20種目となりました。総合体育大会の皮切りとなる総合開会式も参加校すべての生徒の入場行進により開催され、本市の夏の風物詩となる行事となっています。

半世紀を超える歩みの中で、本市において開催した九州・全国の大会も数多く、1991（平3）年には、第31回全国中学校水泳競技大会を福岡県立総合プールにて、第22回全国中学校柔道大会を福岡市民体育館にて、2000（平12）年には、第31回全国中学校ソフトテニス大会を福岡市立博多の森テニス競技場にて、2009（平21）年には、第49回全国中学校水泳競技大会を福岡県立総合プールにて開催しました。この大会は、思いもよらず開催直前に急逝された、（財）日本水泳連盟名誉会長 古橋廣之進氏の追悼大会でもありました。これまで日本水泳界の発展のために大きく貢献された故人のために、開会式前に黙祷を捧げ、大会役員・競技役員が喪章をつけての開催となりました。古橋廣之進氏の思いに応えるように、若き精鋭たちにより繰り広げられた熱きレースや演技は、見ている全ての人々に感動を与えるものでした。高速水着の普及により全国標準記録の突破者が続出し、参加選手2255名、競技役員250名、日本中学校新記録11、大会新記録27等、歴史に残る史上最高のマンモス大会となりました。



平成21年度第49回全国中学校水泳競技大会
平成21年8月21～23日 福岡県立総合プール

また、2010（平22）年宮崎県で開催予定であった第40回九州中学校柔道競技大会が口蹄疫問題で開催不能となり、急遽福岡での開催となりました。そのため、第39回九州中学校バドミントン競技大会をアクション福岡にて、第40回九州中学校柔道競技大会を福岡市九電記念体育館にて開催しました。どの大会も、関係諸団体の皆様のご支援により滞りなく開催することができました。

組織も充実し、運営も定着化してきた本連盟ではありますが、部活動の教育課程の位置づけ、顧問教師不足の問題、また、社会でも問題化している中学生の体力低下や人間関係のトラブルなど、課題も山積しており、現在の運動部活動を取り巻く状況は依然厳しいものがあります。今後も福岡市内中学校生徒の夢の実現を支えるため、関係諸団体との連携を図り、福岡市中体連も（財）福岡市体育協会の一員として、多くの有為の人材を世に送り出すべく、さらなる努力を重ねていく所存です。

終わりにになりましたが、（財）福岡市体育協会の更なるご発展と関係各位のご健勝を祈念申し上げます。